

Closure report 2024

終了報告書

エスワティニ王国

シェウラ地域開発プログラム

(SWZ-186252) (2007年～2024年)



ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

給水所から安全な飲料水を得られる世帯

2010年

2024年



41%

100%

複数の収入源を持つ世帯

2016年

2024年



21.5%

100%

子どもへの暴力や虐待を発見した際の通報先を知っている保護者

2024年



84%

Water



水衛生

長時間の水くみから子どもたちを解放

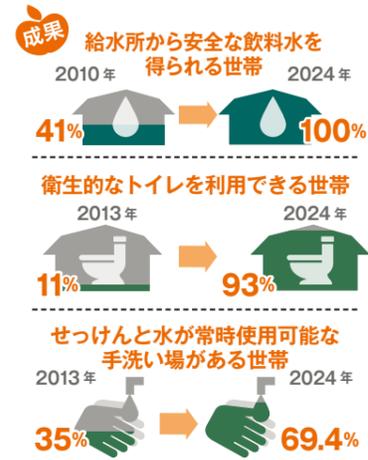
この地域の最大の課題は水衛生でした。毎日長時間かけて水くみに行き、動物と共有する川や湧き水の不衛生な水を、飲み水・生活用水として使っていたため、住民の多くが下痢などの症状に苦しんでいました。また、トイレや手洗い場が普及しておらず、衛生習慣が身につけられなかったことも、子どもたちの健康をむしろ一因でした。そこで地域や学校に給水設備を建設し、家庭菜園や調理に安全な水を使用できるようにしました。またトイレと手洗い場を設置したほか、コミュニティ内で水管理委員会を発足し、住民自らが持続的に給水施設の維持や運用管理を行えるよう研修を行いました。こうした活動の結果、子どもたちは長時間の水くみから解放され、人々の健康も改善されました。



支援前 不衛生な湧き水の水をくむ家族



支援後 支援により設置された水道から水をくむ子ども



マネージャーよりごあいさつ



シエウラ地域開発プログラム
マネージャー
ザクヘレ・ドラミニ

チャイルド・スポンサーの皆さま、長きにわたりシエウラ地域を支えてくださり、ありがとうございました。ワールド・ビジョンの支援が始まった当時、この地域は、水と食料の不足、深刻な貧困、HIV/エイズの蔓延といった多くの課題を抱えていました。しかし、17年という年月をかけて、様々な取り組みを継続してきた結果、いまでは安全な水を得られるようになって衛生環境も改善し、さらに子どもの保護や権利に対する地域住民の意識も大幅に向上しました。いま、子どもたちが希望を持って生きていくことができるのは、皆さまが私たちとともに歩んでくださったおかげです。温かいご支援に、心から感謝いたします。

Livelihood



生計向上

複数の収入源を得て、より安定した生活を送れるように

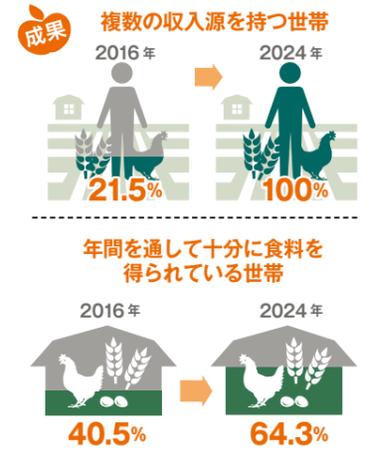
以前は、地域住民の大半が主に農業を中心とした自給自足の生活を営んでいましたが、干ばつによる収穫量の減少から、深刻な食料不足が生じていました。また多くの人が安定した職に就いていないことや、食料不足に起因する市場での食料価格の高騰が、地域の貧困を深刻化させていました。そこでワールド・ビジョンは、住民が毎月少額のお金を持ち寄って貯金し、そこから借入れができる貯蓄グループを設立し、住民同士互いに助け合える仕組み作りを行いました。また収入の増加につながるよう、家庭菜園や縫製の研修を実施したところ、今では多くの人が複数の収入源を持ち、より安定した生活を送ることができています。経済的な自立が、人々の自信とさらなる生活向上への意欲につながっています。



支援前 手つかずの状態だった畑



支援後 家庭菜園の研修を受けて、野菜を収穫する家族



Health



保健・衛生

施設の建設と研修を通じた医療の拡充

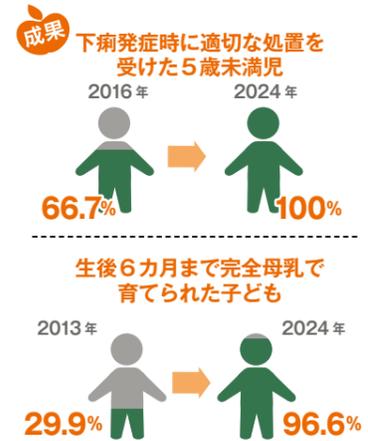
シエウラ地域から最寄りの病院までは遠く、地域の診療所には看護師が常駐していなかったため、人々は医療サービスを受けることが難しい状況でした。エスワティニは、HIV/エイズの感染率が世界で最も高い国であり、患者は周囲からの厳しい差別や偏見に晒されますが、シエウラ地域も例外ではなく、多くの人が検査や受診をためらっていました。ワールド・ビジョンは住民が医療を受けられる体制を整えるため、診療所の近くに看護師用の宿舎を建設したほか、保健スタッフを育成して住民に健康維持や病気の予防方法を周知しました。また宗教リーダーへの研修を通じて、人々にHIV/エイズ検査と治療の重要性を訴える活動を継続的にを行い、病気に対する人々の理解が深まっています。



支援後 診療所で看護師による手当を受ける患者



支援後 保健スタッフが子どもの身体測定をする様子



地域代表者からのごあいさつ



水管理開発委員会委員長
ジェローム・マククララ氏

ワールド・ビジョンの支援が始まる前、この地域では水不足が深刻で、私たちは湧き水からくんできた不衛生な水を飲まざるを得ず、多くの住民が体調を崩していました。さらに、干ばつの影響で農作物の収穫が減り、飢えにも苦しんでいました。しかしチャイルド・スポンサーの皆さまのご支援によって、井戸や給水設備が建設され、また気候変動に対応した農法を学んだおかげで、地域は大きな変化を遂げることができました。こうした活動の成果を生かし、これからも私たちは地域をより良くしていくための努力を続けていきます。これまで支えてくださったチャイルド・スポンサーの皆さま、本当にありがとうございました。

Child Protection



子どもの保護

地域住民を主体とした、子どもを守り育てる環境作り

教育の重要性や子どもの権利に対する保護者の意識が低く、多くの子どもが学校に通わずに家事や仕事を手伝ったりして過ごしていました。また、家族や親戚からの虐待・暴力を受けるケースも少なくありませんでした。このような状況を改善するため、住民や保護者、また子どもたち自身にも学校に通うことの必要性を訴え、放課後や週末には、子どもが安心して学習したり、遊んだりすることのできる「子どもクラブ」を定期的に開催しました。警察官を学校に招いて犯罪や薬物、家庭内暴力から身を守るための研修を実施するなど、地域住民が主体的に子どもたちの健やかな成長を促す環境作りが進められるようになりました。



支援後 警察官による子どもを対象とした研修の様子



支援後 子どもクラブで遊ぶ子どもたち



皆さまとともに歩んだ17年間の支援と成果

準備期
2007年度
▼
2009年度

- ◎ 支援対象地域の状況やニーズの調査
- ◎ 地域内で最も弱い立場に置かれた子どもの特定
- ◎ チャイルド・スポンサーシップに関する、地域リーダーおよび住民を対象とした研修
- ◎ 調査結果に基づくプロジェクト実施計画の立案



チャイルド・スポンサーシップについて研修を行う様子

第1期
2010年度
▼
2014年度

- ◎ 診療所の近くに看護師用の宿舎2棟を建設
- ◎ HIV/エイズ予防の啓発キャンペーンの実施
- ◎ 地域内の学校に教室を増築し、机やイスなどを提供
- ◎ 貯蓄グループを設立、運営に関する研修の実施
- ◎ 8つの井戸を建設
- ◎ 行政、警察と連携した子どもの保護に関する啓発活動の実施
- ◎ 子どもを対象とした貯蓄グループの設立



新しい校舎で学ぶ生徒たち

第2期
2015年度
▼
2018年度

- ◎ 性暴力防止に関する研修
- ◎ 子どもの権利に関するアドボカシー活動を行う市民グループの設立
- ◎ 5つの地域を管轄する給水プロジェクトの立ち上げ
3つの小学校に合計60基のトイレと手洗い場を建設
- ◎ 346世帯の手洗い場の建設を支援
- ◎ 9つの井戸を建設



ワールド・ビジョンが建設した井戸

第3期
2019年度
▼
2024年度

- ◎ 6基の井戸を修繕
- ◎ 高校に障害者用のトイレと給水設備を建設
- ◎ 学校・教会・診療所に手洗い場を建設
- ◎ 新型コロナウイルス感染症流行時に、学校・診療所・地域に防護服を提供
- ◎ 給水設備の維持・管理を行う水管理委員会の設立
- ◎ ジェンダーに基づく暴力防止に関する研修
- ◎ 支援終了後の移行計画について、関係者との話し合い



水管理委員会のリーダーを務める男性、子どもたちとともに

支援を受けたチャイルドのストーリー

「ぼくの人生を変えてくれた日本の皆さまに、心からお礼を言いたいです」

テムブメンジさん
(23歳)

幼い頃に両親を亡くしたテムブメンジさん（写真後列・立っている男性）は、兄とともに叔母家族に引き取られました。小学校は卒業できましたが、生活が苦しかったため中学の学費を払ってもらえず、数カ月で学校を辞めなければなりませんでした。「育ててくれた叔母一家にはとても感謝していますが、あの頃は毎日ふさぎ込んでいました」

そんな日々は、ワールド・ビジョンのボランティアスタッフがテムブメンジさんの家を訪ねてきた日から一変しました。彼はチャイルド・スポンサーシップを通じて2年間の学費の支援を受け、学校に戻ることができたのです。勉強に励んだテムブメンジさんは、中学を卒業後、建築の道に進むために職業訓練校へと進学しました。

「いま、ぼくはシェウラ地域で家を建てる仕事をしていて、叔母の家も建て始めました。ちゃんと職に付けたこと、そして家族の生活も支えられていることが何よりうれしいです」と語るテムブメンジさんは、将来は自分の建築会社を起業したいという夢を持っています。「ぼくの人生を変えてくれた日本の皆さまに、心からお礼を言いたいです。ワールド・ビジョンとチャイルド・スポンサーの皆さまがこれからもほかの地域で子どもたちを支援し、彼らを笑顔にしてくれることを祈っています」

